

田島弘庸 個展 How about that? —どないやねん—

Solo Exhibition by Hirotsune Tashima

2015.12.5 (Sat) —19 (sat)

日、月 休廊 Closed on Sunday, Monday

12:00 — 19:00



"Easy Money-Print Fake check, cash it, nobody bother to check who did it"

2015

H46xW42xD32 cm

陶 Ceramic

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202,Nihonbashi Honcho,Chuoh-ku,Tokyo

103-0023,JAPAN +81(0)3 5542 1669

YUKI-SIS では、12月5日（土）－19日（土）田島弘庸個展「How about that?-どないやねん-」を開催いたします。

1969年広島生まれの田島弘庸は、1991年に大阪芸術大学陶芸科在学中に交換留学で渡米。ヨーロッパの繊細な陶芸よりも、アメリカの型破りな陶芸のセンスに魅せられ、大阪芸大卒業後再度渡米。N Y州アルフレッド大学院修了後、アメリカに約四半世紀在住。

現在アリゾナ州ピーマカレッジ陶芸学部長教授として教えながら、大阪のヨシアキノウエギャラリーでの個展をはじめ、「世界各地で展覧会、ワークショップやレジデンスーなどに招待され、異文化との交流を身近に感じて、日本文化を外から見た様子を取り入れた作品を制作しています。

パブリックアート多数。デビッド・ボウイコレクション、高橋コレクション、「たけしの誰でもピカソ」、キリンアワード奨励賞、岡本太郎賞入賞など。

田島は陶作品を作り始めた頃から、セルフポートレートスタイルを貫いています。自分の顔を登場人物に当て込むことで、本質への理解と表現を深めた作品づくりをしています。光と影、そして細部までこだわり抜いた彫像は説得力にあふれ、また釉薬と窯の熱、空気などが関係する化学反応による着色のみで彩色しています。

今回の展覧会タイトルは「How about that? -どないやねん-」

大阪で育った田島は、とにかく観る人を楽しませたいといいます。それは、お笑いという文化が根強く残る関西特有のセンス。今回の展覧会タイトルの「How about that? -どないやねん-」というシンプルな表現の中には、いろんな意味合いが含まれているそうです。

「なんなのこれ？ そうくるか！」と、驚嘆と意外性を楽しむ気持ち。

「おもしろいやんけ！」 自分の文化との違いを排除するのではなく、肯定する気持ち。

「アメリカに住んで 25 年近くですが、自分が日本人であると、強く感じます」

「日本人のアイデンティティを感じつつ、アメリカに住み、世界中を旅して異文化に接すると、今まで培ってきた自分の常識がくつがえされる「どないやねん」的な経験に遭遇することが多々ある。それをただ否定するのではなく、「そうくるか」と楽しみ、受け容れ、ツッコミをいれる態度を「どないやねん」と表現したい。」

『私はそのスタイルではありませんが、あなたのそのスタイルも「アリ」ですね』 もしもそういった態度で相手を認め、個性として受け入れることができれば、世界で起こっている悲しい出来事は、少しだけ笑いに変わっていくかもしれません。

今回展示する作品には、田島が実際に体験した数々のエピソードが多く含まれているそう。



"Honey, I Need More Flavor" (みそ汁に醤油ですか)

2015

H17xW16xD11 cm

陶 Ceramic

この作品はアメリカのいい身分のカップルが日本食レストランでする会話から作品が作られています。

テーブルに味噌汁が食事前のスープとして運ばれてきました。

妻： Honey, I need more Flavor. あなた、もう少し味が欲しいわ。

夫： Oh, That's not a big deal, here is how you do it. ああ、大丈夫だよ。こうやってするんだ。

夫はテーブルに置いてあった醤油をどぼどぼと味噌汁に入れ始めます。

妻： I am Vegan as you know, How authentic! あなたも知ってるように私は菜食主義で醤油を使って、なんて本物の日本の雰囲気かし

ら。

こうした間違っただ日本文化の理解は、至るところで日常茶飯事に起こります。

しかし、俯瞰したものを見方をすれば、価値観は人それぞれで、何が正しくて間違っているということはありません。

ただ、日本人からみればおもしろいけれど、彼らはいたって大真面目です。



"Easy Money-Print Fake check, cash it, nobody bother to check who did it"

H46xW42xD32 cm

陶 2015



これは男が簡単に偽物の小切手を印刷して、偽のサインをして現金化したのに、銀行も警察も犯人を調べたりしないというアメリカでの実話。

詐欺にあった人は、現金を取り戻せ、銀行は保険会社から保障され、保険会社は日頃保険料を高くとり、警察はちょっとやそっとでは動かない。

誰も損をしない、この筋書きを書いた犯人だけが得をする、嘘のような笑い話のような本当のお話。これがまかり通るアメリカ社会に「How about that? どないやねん」。

新作約 8 点が展示される予定です。

ぜひご覧ください。